

講師紹介

Dr. Suzanne Flynn

MIT (マサチューセッツ工科大学) 教授

幼少の頃から母語以外のことばを獲得する人間の能力について興味をもち、1983年コーネル大学にて学位を取得。現在、米国マサチューセッツ工科大学にて言語学および多言語獲得研究の第一人者として活躍中。ノーム・チョムスキー博士 (1928~) の学説として有名な「普遍文法 (Universal Grammar) 理論」も含め、30年以上にわたり人間の言語獲得のメカニズムや環境について研究。その結果、「多言語を話すことは人間にとって自然である」「人間の言語獲得能力には限界が無い」「自然な多言語環境／体験は人間の知性を伸ばす」「多言語人間は認知症になり難い」などのユニークな学説を提唱している。



Dr. 酒井 邦嘉

東京大学大学院 教授

1987年東京大学理工学部物理学卒業。1992年、同大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。同年、同大学医学部助手。1995年、ハーバード大学医学部リサーチフェロー。マサチューセッツ工科大学 言語・哲学科客員研究員を経て現在に至る。言語に規則があるのは、人間が言語を規則的につくったためではなく、言語が自然法則に従っているからである——。このようなチョムスキーの言語生得説は激しい賛否を巻き起こしてきたが、最近の脳科学は、この主張を裏付けようとしている。実験の積み重ねとMRI 技術の向上によって、脳機能の分析は飛躍的な進歩を遂げた。こうした背景の中で、失語症や手話の研究も交えて、言語という究極の難問に脳科学の視点から挑んでいる。



著書 『言語の脳科学』『科学者という仕事』
『科学という考え方』(中公新書刊) など

▼国や人種の違いを超えて、どんなことばを話す人ともコミュニケーションできるようになれば…。そんな思いから1981年、多言語を自然習得(母語の習得プロセス)するヒッポファミリークラブは誕生し、主に「多言語の自然習得活動」、「国際交流活動」、「研究・開発活動」の3つの活動を実践しております。

▼本来、人間誰もが「どんなことばでも」「いくつでも」話せるようになる自然のチカラを持っています。インドやルクセンブルクなど「多言語の環境」のなかで育った赤ちゃんは、いつの間にか母語としていくつものことばを習得していくのです。

ヒッポファミリークラブは、それと同じプロセスでいくつものことばを自然に身につけられる『多言語の環境づくり』を、家族やたくさんの仲間たちと一緒に進めています。

赤ちゃんから大人まで、誰でもいつからでも参加できる活動の場は、全国に700カ所以上あります。いろんなことばが飛び交う“多言語の公園”で、自然に話せるようになる楽しさを体験してみませんか。



言語交流研究所 ヒッポファミリークラブとは

お申込み方法

【一般】 ◆お電話(フリーダイヤル0120-557-761)、またはホームページ内の「シンポジウムお申込みフォーム」(下記URLまたは右記QRコードよりアクセスください)よりお申し込みいただけます。
◆参加費は、当日受付にてお支払いください。

【会員】 ◆会員の方は直接所属フェロウまでお申し込みください。

※定員になり次第締め切りとさせていただきますので、ご了承ください。



お問い合わせ・お申込み

ヒッポファミリークラブ 西日本 ☎ **0120-557-761** (受付時間) 平日10:00-16:00
シンポジウム特設ページおよびWEBお申込みURL: <http://www.hfcw.jp/symposium/>

2017年2月東京開催「多言語+脳科学シンポジウム」参加者の声

今まで私はヒッポファミリークラブの活動を通して、無意識に多言語の環境に浸り、色々なことばを自然に習得してきました。自分の感覚や体感で多言語のすばらしさは理解していましたが、本公演で、単言語ではなく多言語の環境が、人間として自然な状態であり、ことばを獲得するのに最も適した環境である、と言い切っていたら、「これからもっとたくさんの言葉を楽しみながら獲得したい」と強く思いました。

(22才大学生)

今まで、努力の結果話せるようになっていた外国語への考え方が180度変わりました。一つの言葉ごとにみるのではなく、ことばをひとつのまとまりとして見る考え方に共感しました。

こどもの語学教育に役立てたいです。

(30代主婦)

楽しく聴かせてもらいました。実際、本当かなと思うくらい画期的でした。でも、マサチューセッツ工科大学と東京大学の両教授の理論ですから、この年齢でも挑戦してみたいです。

どうすればできるのでしょうか。

(60代男性)